



MEDIPOLIS

MEDICAL RESEARCH INSTITUTE

メディポリス指宿通信 2021年7月号

■ 新型コロナウイルス感染対策

各地で新型コロナウイルスワクチン接種が進んでおりますが、まだ収束には至っておりません。当センターでは、感染対策をしっかり行い患者さんに安心して治療頂ける環境を整えております。また、医師や看護師などセンター職員は新型コロナウイルスのワクチン接種を完了しております。

先月から本格的に高齢者のワクチン接種が始まり、陽子線の治療中にワクチン接種をしてもいいかというお問い合わせも増えております。

接種日に合わせて治療日程を調整することも可能ですし、陽子線治療中にワクチン接種することは問題ありませんので、治療を希望される方は遠慮なくご相談ください。

来院時の対策について

当センターに来院される患者さん、付き添い者につきましては、以下についてご協力・徹底をお願いしております。

- ・すべて予約制とし、待合室での人数が少なくなるようしています
- ・付添いは原則1名(生活を共にする者)とさせていただきます
- ・入口にて非接触型体温計による検温を実施します
- ・入口にて消毒用アルコールで手指を消毒していただきます
- ・施設内ではマスクを着用いただきます



メディポリス国際陽子線治療センターでは、新型コロナウイルスの院内感染を防止するための取り組みを徹底しております。患者さんをお待たせすることなく速やかに治療開始できるよう、職員一同、連携・団結して取り組んでおります。どうぞ、ご安心ください。



コロナ禍でも

がん検診は必要です



どんな「がん検診」があるの？

肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つのがんは、がん検診によって死亡率が低下することが科学的に証明されています。



いつ受ける？ 声かけしよう がん検診

公益財団法人日本対がん協会 2020年度がん罹患ストーリー

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で検診の受診者は激減しています



一般的に、早期発見ほど治り、発見が遅れるほど治療が困難になります。コロナは防いだけれど、がんが進行していた、では本末転倒です。

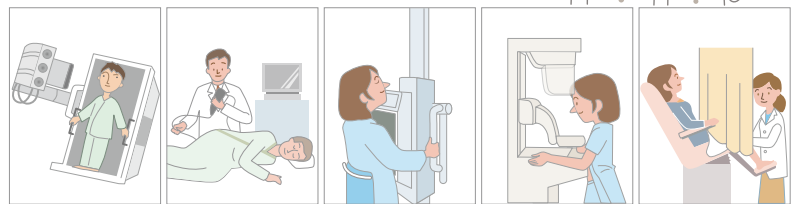
検診は心も救います

検診に行かなかった方は、がんになったショックに加え、「検診を受けていたらもっと早期に見つかったかもしれない」という後悔を抱きがちです。

ご家族もまた、「どうしてもっと強く、検診に行けと言わなかったのだろう」と、自分を責めたりします。定期的にがん検診を受けてください。



日本対がん協会「がん相談ホットライン」からのメッセージ



胃がん検診
胃X線検査
胃内視鏡検査

対象年齢:50歳以上
受診間隔:2年に1回

※当分の間、胃X線検査については40歳以上年1回実施も可

大腸がん検診
便潜血検査

対象年齢:40歳以上
受診間隔:年1回

肺がん検診
胸部レントゲン
喫煙者は併せて
喀痰検査

対象年齢:40歳以上
受診間隔:年1回

乳がん検診
マンモグラフィ検査

対象年齢:40歳以上
受診間隔:2年に1回

子宮頸がん検診
細胞診

対象年齢:20歳以上
受診間隔:2年に1回

検診機関は「密」の回避、検温や消毒などの感染防止策をとっています。 ※公益財団法人 日本対がん協会より

■ お問い合わせ

一般社団法人 メディポリス医学研究所
メディポリス国際陽子線治療センター
〒891-0304 鹿児島県指宿市東方4423番地
【治療相談】 ☎ 0120-804-881

■ お知らせ



ホームページ

さまざまな SNS でメディポリスの情報を発信しております。QRコードを読み込んでいただき、是非ごらんになってください！



YouTube

Instagram・Facebook・LINE も更新しております！

■ 骨軟部腫瘍の啓発月間

6月は骨軟部腫瘍の啓発月間でした。骨軟部腫瘍とは、骨および軟部組織（筋肉、脂肪、神経、血管など）にできる腫瘍のことを言います。陽子線治療においては、手術による根治的な治療が困難で、単発性で限局（リンパ節転移や遠隔転移が無い）性の骨軟部腫瘍が適応となります。2018年4月より骨軟部腫瘍の陽子線治療は公的医療保険の適用となり、治療費の負担が軽減されています。

骨軟部腫瘍の啓発月間にあわせて、センター内にあるツリーは、シンボルカラーである黄色のリボンがたくさん結びつけられていました。



■ メディポリスよもやま話 [その②・治療の証明]

治療期間の途中で受付に来たその方のご要望は、『治療をしている証明が欲しい』でした。

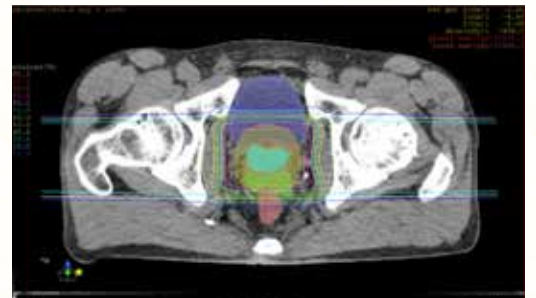


よくある民間保険の申請や職場での手続きを目的とした依頼ではない。
『目に見えず、何も感じない、何の症状も起きないでは治療をしているか分からないじゃないか』
よく考えるとごもっともな申し出。

患者さん側からすると、医師と放射線技師から口頭や書面でああなたの治療は、このように行いますと説明を受けていても日々の治療は、治療台に寝て今日の治療は終わりです。『明日も同じ時間に来てください』の繰り返し。
がんを治療できている実感が無い。

自分の身体にがんが居ると思うと色々な思いに駆られるのが人の反応。
あまりにも何もないと、治療出来てないのでは、と不安になることもある。

当院では、治療最終日に「照射録」と「治療計画画像」をお渡ししています。
何年何月何日にどの方向からどの範囲どれくらいの量の陽子線が照射されたかの記録です。その方に説明すると『それなら良かった、陽子線治療の後、主治医にどう伝えるかも心配だったから』とのこと。
その後の治療も黙々と通院されました。



こんな場面では、いつも患者さんが色々なことを教えてくれる先生だと実感します。

■ 治療症例実績数 4355 件

・前立腺	2001	・脾	304	・骨軟部	101	・乳がんの術後照射（外国人含む）	3
・肝・胆管	669	・転移（リンパ節）	294	・腎	24	・早期乳がんの非手術治療	13
・肺	589	・頭頸部	195	・その他	162		

（2021年6月11日現在）